

GREETING :挨拶

私の身のまわりで起きたこと、最近私が考えている事。

お薦めの本を紹介します

いつもありがとうございます。

先日、ある本を読みました。「がんばれば、幸せになれるよ」という本です。

ユーディング肉腫という10万人にひとりともいわれる小児がんを5歳で発病し、5度の再発、4度の手術を経験したのち、わずか9年という短い生涯を閉じた山崎直也君という男の子が遺した数々の言葉をお母さんが綴った本です。

私自身は、つい最近この本を知って読んだのですが、2002年に書かれたもので、2007年には日本テレビの24時間テレビでスペシャルドラマにもなったということですので、すでにご存知の方もいらっしゃると思います。

壮絶な闘病生活の日々。希望と絶望の繰り返し。受け入れなくてはならない死。その中で見せる、直也君の人に対するやさしさ、思いやり、何があっても諦めない不屈の闘志、家族への想い。そして、生きたいという強い強い願い。

読みながら、何度も号泣してしまいました。

発病した時、わずか1歳だった直也君も、懸命に病気と闘う中で真剣に自分の人生と向き合い、生と死について考え、ある意味人生を悟っていきます。そこには、本当に9歳の男の子の言葉か?という

ものがたくさんあってとても驚かされました。

激しい痛みや死の不安と闘いながらも、お母さんを苦しめちゃいけないという想いから、決して

がんばれば、幸せになれるよ
小児がんと闘った9歳の息子が遺した言葉

著者: 山崎 敏子
定価: 438円(税抜)
出版社: 小学館



今年も、一年
お世話になりました

泣き言は言わず、逆に「おかあさん、もしナオが死んでも暗くなっちゃダメだよ。明るく元気に生きなきゃダメだよ。わかった?」と両肺をがんに埋め尽くされ、うまく呼吸ができない状態で言うのです。

また、お母さんが「代われるものなら代わってあげたい」と言うと、「ダメだよ。ナオでいいんだよ。ナオじゃなきゃ耐えられない、おかあさんじゃ無理だよ」ときっぱり言ったそうです。

私は、この本を読んで直也君から、たくさんの**勇気**と**希望**をもらいました。そして、家族や周りの人を大切にし、前向きに生きていこうとあらためて心に誓いました。また少し、人生観が変わった気がします。

ある時、直也君がお母さんに聞いたそうです。「ナオは何のために生まれてきたのかなあ。ナオは病気になるために生まれてきたのかなあ」

それに対してお母さんが、「ナオはね、みんなに**勇気**と**希望**を与えるために生まれてきたんだよ」そう答えると直也君は、「そうなんだ」とうれしそうにうなずいたそうです。

今日本の将来に対する閉塞感でいっぱいです。愚痴や不満でいっぱいです。でも、気持ちの持ちようでたくさんの希望が見つかると思います。

2011年が皆さまにとって素晴らしい一年になりますように!
今年も、本当にありがとうございました。

感謝!!

FAVORITE :お気に入り

今回は、「がんばれば、幸せになれるよ」と合わせて「ゆりちかへ」という本をご紹介させていただきます。

「あなたはママが生きる目的です。」

皆さんに、もう一冊ご紹介したい本があります。

妊娠中にがんを発症し、治療を優先するか、お腹の赤ちゃんを優先するかというとても難しい選択を迫られ、自身の治療よりも元気な赤ちゃんを産むことを決断したお母さんが、生前に娘のゆりあちゃんに残したメッセージがつまつた本です。

「ママは泣いています。ほんとうに辛いです。ママの体はよくなりません。せっかくゆりちかを産んで、せっかく完全に可愛い赤ちゃんを産んで、赤ちゃんにはお母さんが絶対絶対必要なんですけど、そばにいてほんとうに教えたことがあるんですけど、いっぱい話したいことがあるんですけど……。」

ママはあなたといっしょに生きることができないみたいです。どうして、あなたを残して死なないといけないのか。そんな!ママは死にたくないです、死にたくないです。」

辛く苦しい闘病生活中で、少しづつ書きためた娘へのメッセージ。それは、決して表面的なものではなく、母親の愛情がいっぱいつまつた心の底からの本音です。



ゆりちかへ
—ママからの伝言—

著者: レニン晃子
定価: 1,300円(税抜)
出版社: 書肆侃侃房